




～ コンプライアンス推進の専門家として、組織をリードする方のための決定版講座！ ～

コンプライアンス総合コース

受講期間 7カ月 / 添削回数7回 / 受講料 48,000 円（税抜）（52,800 円（税込））

※ 団体割引:47,520 円(税込)(法人単位 申込者数 5 名以上)

- 企業倫理を中核としたコンプライアンスの意義を深く理解し、経営手法としてコンプライアンスを推進、指導していくための知識、判断力、指導力を身につけられます。
- コンプライアンス専門家に不可欠な専門知識、判断力、行動を体系的に身につけられる構成になっています。
- 全 7 回 70 点以上の成績を収めた方は、申請により「**認定コンプライアンスアドバイザー**」資格を取得できます。

	科目	内容
第 1 回 第 2 回	企業経営と企業倫理	企業倫理とコンプライアンスの重要性／コンプライアンスの組織体制 企業の社会的責任／経営管理論
第 3 回 第 4 回	ガバナンスと 内部統制	ガバナンス論／内部統制の機能／リスクマネジメントの手法／内部監査
第 5 回 第 6 回	企業法務の基礎	企業法務・コンプライアンスの基礎／顧客・消費者保護法制 公正な事業活動と法／労働と法／行政と法／環境と法
第 7 回	総合問題	
受講想定者	・ コンプライアンス部門、内部統制部門、総務・管理部門、内部監査部門等の責任者、スタッフ ・ 経営者、取締役、監査役、管理職など	
教材および 認定証	総合テキスト 3 冊 	受講ガイダンス／問題・ 解答用紙／質問票 
		認定カード・認定証 

<選択式サンプル問題>

企業におけるコンプライアンス・オフィサーの位置付け・役割に関する以下の(ア)～(ウ)の記述のうち適切なものの組み合わせはどれか、(1)～(4)から1つ選びなさい。

- (ア) 業務遂行にあたってコンプライアンスを実践するのは、コンプライアンス・オフィサーだけではなく、支店や営業所等の職員の役割でもある。
- (イ) コンプライアンス推進に関する最終責任は、経営トップにある。
- (ウ) コンプライアンス・オフィサーの活動状況は、原則として内部監査部門による監査を受ける必要があるが、コンプライアンス・オフィサー自身が高度な知識・経験を有する者であれば、内部監査部門の監査を受ける必要はない。

- (1) (ア)と(イ) (2) (ア)と(ウ) (3) (イ)と(ウ) (4) (ア)(イ)(ウ)のすべて

<記述式サンプル問題>

現代企業は、なぜ企業倫理・コンプライアンスを組織内に推進・徹底すべきなのか、その理由を簡潔に説明しなさい。